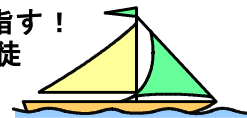


学校教育目標 「自分で考え、正しく判断し、最後までやり抜く生徒」の育成を目指す！

①求めて学ぶ生徒 ②心を高める生徒 ③たくましい生徒



小値賀物語2 第12話



令和3年6月30日発行
教頭 石井洋治

小値賀町立小値賀中学校 校長 池田英二

6月25日(金)小中高合同町内海浜清掃

晴天に恵まれ、青空と青い海を背景に気持ちよく活動できました。中学生は1年生が「ふなせ」「大島」、2年生が「赤浜」、3年生が「地ノ神島神社」に分かれて活動しました。小中高の縦割りでグループをつくり、各グループごとに事前打ち合わせ、清掃活動、反省まで行いました。自分たちで自主的に活動する姿は、学校教育目標「自分で考え、正しく判断し、最後までやり抜く生徒」を具現化しているようでした。また、高校の先輩方がグループをまとめる姿を見ながら、リーダーとしての役割や責任を学ぶことができました。

どの地区にも、プラスチックごみが多く漂着しており、世界的に問題となっているマイクロプラスチック問題についても、体験して初めてその深刻さを感じることができたと思います。活動後には、たくさんのごみが集まりましたが、町役場建設課や教育委員会の皆様のご協力によりトラックでごみ回収を行っていただきました。ありがとうございました。



ふなせは広い範囲にいろんなごみが落ちていました。各グループで分担し協力して取り組みました。



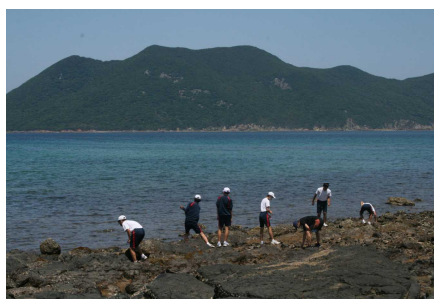
赤浜にも大量のごみが漂着していました。誰が出したゴミなのでしょうね。



先輩のリーダーシップのもと自主的に活動できました。事前の説明や活動後の振り返りもしっかり行いました。



役場職員の方がトラックで回収に来てくださりました。助かります！みんなで美しい環境を守ることの大切さを感じました。



地ノ神島神社前の美しい海に向かって、みんな石投げに興じています。もちろんまだ活動開始時間前です。さぼってるわけではありません。

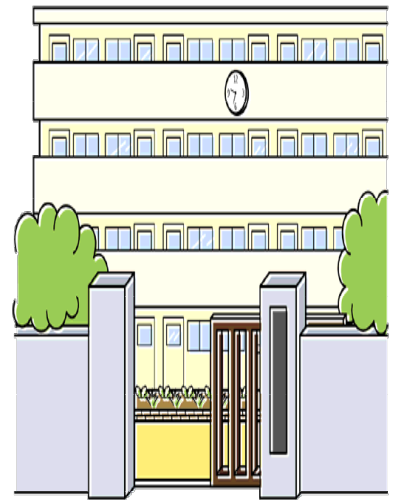


美しい自然と豊かな歴史や文化に囲まれた小値賀の素晴らしさを再発見する時間にもなりました。

6月28日(月)校長講話「小値賀っ子の心を見つめる教育週間」

教育週間の始まりに、校長講話を行いました。この教育週間は、過去、長崎市で中学生がビルの屋上から幼児を突き落とし死亡させた事件等を受けて設定されました。このような悲惨な少年事件を二度と起こしてはならない、過去の出来事として決して風化させてはならないという強い思いのもと、教育週間がつけられました。この講話で、私が子どもたちに伝えたかったことは「自分の周りにいる人を大切にしてほしい。」ということでした。そこで今回は「地獄と極楽」という話をしました。

ある人が「地獄」に案内されて行くと、そこには大きなテーブルがあり、その上にはおいしそうなおごちそうがいっぱいのっていました。しかし、そのテーブルに向かって人を見ると、どの人も骨と皮ばかりにやせ細っていて、目ばかりギラギラさせて怒っています。こんなにごちそうがあるのになぜだろうとさらによく見ると、体が椅子にしばりつけられていて、その手には長いはしを持っていました。その長いはしで離れて置いてある料理を食べようとしますが、長すぎてうまく自分の口に入らないのです。食べようとあせればあせるほど思うようにならないので、ますます恐ろしい形相をして、お互いに怒って、にらみ合っている様子でした。次に「極楽」に案内されて行くと、全く同じようなテーブルがあって、ごちそうがいっぱい載っています。そのまわりに座っている人たちの体も地獄と同じように椅子にしばりつけられていて、その手には長いはしを持っていました。状況は地獄と全く同じなのですが、そこに座っている人たちを見るとみんな豊かな身体つきで、見るからに楽しそうな笑顔で、幸せそうな様子なのです。いったい、どういうわけだろうとよく見て観察すると、その人たちは長いはしでごちそうをはさんで、向かい側の人に「はい、どうぞ 食べてください」と差し出しているのです。すると向かい側の方は「おいしい、おいしい、ありがとう」と食べては、今度は反対に、長いはしでごちそうをはさんで「はい、どうぞ」と向かいの人に差し出すものですから、お互いに、「すみませんね、ありがとう、あなたのおかげです」と言って、本当に幸せそうな顔をしているのです。(ここで地獄と極楽の違いを生徒に質問したら、3年生の田川翔明君が立派に答えました。) 地獄と極楽の違いは、自分の周りにいる人への思いやりがあるかないかの違いなのです。つまり地獄と極楽との違いは、自分が思いやりをもって、他の人と協力しながら仲良く、かかわって生きていくということに気づいているか、いないかの違いなのです。「おかげさまで ありがとうございます」の心を大切に、自分のことだけでなく、お互いに協力し、助け合うことが大切だと思います。小値賀中の皆さんには、これからさらに、自分の周りの人たちを大切に、周りの人からも大切にされ、ますます豊かで楽しい、笑顔の人生を歩んでほしいと強く願っています。このような講話をしました。



【ちょっといい話】「好きになった父さんの弁当」

「孝代ちゃん、今日の弁当はおいしかったかね」と、学校から帰ると父はいつも訊く。私は「ああ、おいしかったよ」と答えていた。でも本当は、色とりどりのおかずの入った友達の弁当がうらやましかった。また、その弁当を食べてみたいと思った。

大好きだった母は、彼女が小学校4年生の時に亡くなった。その後、父の手一つで育てられた。それで、中学校を卒業するまで、その父が弁当を作ってくれた。ある日、弁当の包みを開けると手紙が入っていた。それには、「孝代ちゃん、今日は14歳のお誕生日、おめでとう。あなたがいるから父さんは幸せです。いつまでも元気でいてくださいね」と書いていた。

その手紙を読むと、朝早くから弁当を作る父の姿を思い出した。それからは、弁当がいつもと違うように感じた。父の弁当が好きになっていた。

以上のような父との思い出を「花嫁が贈る父への手紙」として、結婚披露宴の席で読んだ。その手紙を父親は肩を震わせて聴いていた。

